



内藤記念くすり博物館
2024年

博物館報告書

Museum Annual report



〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel. 0586-89-2101
<https://www.eisai.co.jp/museum>

はじめに

これまでの活動を振り返って

内藤記念くすり博物館（以下くすり博物館）は、令和6年度の博物館法改正に登録博物館になりました。医学・薬学・植物学の総合博物館としてこれからも、教育普及活動・調査研究・保存活動をより精力的に取り組む所存であります。くすり博物館は、木曾川の清流に囲まれた小高い中州で、常緑の樹木の多く繁る所にあります。エーザイの創業者 内藤豊次（以下創業者）により昭和46年に設立されました。当時、昭和40年代当時は高度経済成長期でありましたが、同時に薬屋や製薬企業などの様相も大きく変わり、古い薬や看板、広告類などが散逸され始めておりました。創業者はこの様子を見て、「日本には欧米のような総合的な薬の博物館がなく、このままでは薬学・薬業の発展を伝える貴重な資料が失われ、後世に悔いを残すおそれがある」と考え、そこで博物館を設立し、一般市民の皆様、収集家、研究者、薬屋、薬局や企業、卸等数多の方々からにも貴重な資料ご提供いただき、開館に至りました。お陰様で、本年度で開館より54年目を迎えております。

令和六年度を踏まえて

昨年は教育普及活動を46回行い、薬草・ハーブガーデンフェスタも盛況のうちに終わることができました。さらに地域社会の交流の場を意識し、薬草のイベントや講演会、工場見学など、地域へ向けた催しも多数行ってきました。様々な機会を通じて、広く知の交流に携わってきたと思っております。さらにエーザイ（株）の工場である川島工園と共に認知症カフェ「オレンジカフェ」を開催し、認知症当事者やご家族の皆様に参加いただくことができました。

近年、認知症を取り巻く環境は急激に変化しております。令和5年度には、認知症基本法（共生社会の実現を推進するための認知症基本法）という法律を公布・施行し、より力を入れて認知症問題の解決に取り組む始めました。このように社会が変化していく中で、昨年度の企画展では歴史よりも「認知症のいま」に重点をおき、認知症に関する問題と希望について紹介しました。現在全国で取り組まれている認知症への取り組みや認知症の原因・症状を取り上げ、実態が次第に明らかになりつつある若年性認知症について取り上げました。全国の18-64歳の若年性認知症の発症者数は3.75万人と推測されています。若年性認知症には、従来の高齢者の認知症との付き合い方がそのまま適用できないケースも多くみられ、経済的、社会的不安を抱えている人も少なくありません。これからの治療や診断のほか、認知症へ向き合う際の心構えに対しても微力ながら貢献できればと思い、この企画展を開催いたしました。

また、令和2年から薬草園にて若年性認知症当事者の方に3年4カ月間就労していただいた経験を踏まえて、キャラバンメイトの資格を持つ職員が認知症サポーター養成講座を開催して認知症サポーターを育成することにも注力して参りました。

令和7年度の取り組み

昨年までの取り組みを踏まえて、本年度はよりお客様に満足いただける博物館運営を行っていきたくと考えております。多くの教育普及活動の企画を計画しているほか、企画展「本草学から植物学・創薬への広がり」を開催いたします。また、4月より新規登録資料であるDr. Peter De Smet（オランダ）の収集した絵馬の展示も行ってまいります。ここ数年では、附属薬用植物園の改装工事も進めており、秋口に開催予定の薬草・ハーブガーデンフェスタでは、美しくなりつつある植物園をお楽しみいただければ幸いです。

結びに

これまで当館では開館50年時に作成した博物館史以外に、博物館の活動を紹介する報告書は発行していませんでした。開館54年目を迎えるこの日に、令和6年度の活動の記録を紹介する「くすり博物館報告書」第一号を刊行いたします。この報告書が、より皆様に当館を知っていただける機会となることを願っております。ご高覧いただければ幸いです。

令和7年6月12日

内藤記念くすり博物館館長 森田 宏

I 博物館概要

◇設置目的（設立趣意書 1970年4月1日より抜粋）

”これは今日の薬学および薬業の姿は現在までどのよな経過をたどってきたが、さらに将来はどうあるべきかを、学界や業界はもちろん、ひろく一般の人々にも正しくかいしてもらうためであります。それはわが国だけでなく、海外諸国のくすりについての資料をひろく収集して、安全確実に保管するとともに、実物、標本、模型、写真などを整理して展示し、判りやすく解説して、健康科学ならびに健康産業について、その知識の普及と向上をはかりたいと念願いたしております。このくすり博物館は考古学的に片寄ることなく、テーマを選んで展示し、一般の人びとに薬学および薬業についての知識の普及向上をはかるばかりでなく、専門家にもその調査研究の場を提供しようとするものであります。このくすり博物館が、現在および将来ともに薬学と薬業にたずさわる人びとはもちろんのこと、一般の人びとにたいしても、健康科学ならびに健康産業についての知識の普及と向上の一助となるならば、発起人一同の喜びはこれにまさるものではありません。”

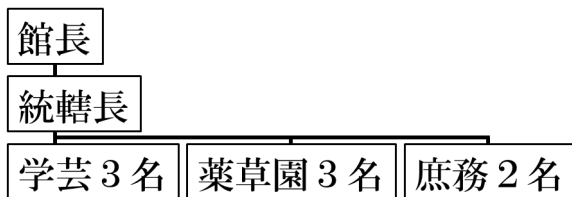
◇博物館沿革

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 1971年度 | 内藤記念くすり資料館 開館
附属薬用植物園 開設
開館記念冊子『内藤記念くすり資料館 ご案内』刊行
特別展「加賀藩の秘薬」 | 1989年度 | 特別展「江戸と明治の看板とくすり」
特別展「湯浅四郎氏寄贈資料展~錦絵・引札・紙看板~」 |
| 1972年度 | 特別展「大槻コレクション展」 | 1990年度 | 特別展「薬草とわたしたち-暮らしのアイディアいまむかし-」
特別展「身近な医療器具-体温計-」
特別展「結核 -なぜ、今結核か-」 |
| 1973年度 | 特別展「健康百寿展」
特別展「現代の性教育」
特別展「近代薬業薬学の発展」
特別展「結核撲滅へのみち」
特別展「ペニシリン物語」 | 1991年度 | 特別展「コレラ -身近にいますコレラ菌-」
エーザイパブリシティラウンジ改装 |
| 1974年度 | 特別展「ひらけゆく健康科学」 | 1992年度 | 特別展「目で見えるくすりのあゆみ」
特別展「花の繪 本草図譜から身近な植物画まで」 |
| 1975年度 | 本館ロビーに四国の伝統薬・敬震丹の工場の再現展示を行う | 1993年度 | 特別展「病む目とめぐすり」 |
| 1976年度 | 特別展「家族計画教室」 | 1994年度 | 企画展「病と祈りの歳時記 -さまざまな健康への願い-」
内藤記念くすり博物館 友の会 発足 |
| 1977年度 | 特別展「はかる」
内藤記念くすり博物館 に名称を変更 | 1995年度 | 企画展「薬売りの引札」 |
| 1978年度 | 特別展「人類とともに4000年 セルフメディケーションと大衆薬」
アメリカ国立歴史技術博物館収蔵品展示「アメリカに見る医学の歴史19世紀を中心として」
『くすり博物館だより』創刊 | 1996年度 | 企画展「百年前のくすり-いろいろな病にどんな薬でたたかったか-」 |
| 1979年度 | 特別展「人類の恩人 ルイ・パストゥール展」
出張展示「くすりの歴史は人類の歴史」 | 1997年度 | 企画展「丸める煎じる-昔の製薬道具-」
秋の展示「江戸時代の風景 名所のくすり」 |
| 1980年度 | 特別展「緒方洪庵と適塾」 | 1998年度 | 企画展「くすり収納のかたち-印籠から百味筆筒まで-」
博物館ホームページ 開設 |
| 1981年度 | 特別展「暮らしに生かそう-身近な薬用植物-」
映画「くすりと日本人」制作・封切 | 1999年度 | 企画展「薬の神様・神農さん贈り物-本草の世界を見つめる-」 |
| 1982年度 | 館蔵品展「くすりの錦絵広告」 | 2000年度 | 企画展「女・こども・男のくすり」 |
| 1983年度 | 特別展「天然痘ゼロへの道-ジャンナーより未来のワクチンへ-」
特別展「切手にみるくすりと健康」 | 2001年度 | 特別展「はやり病の文化誌-麻疹・疱瘡・コレラ-」
開館30周年記念出版『大同薬室文庫蔵書目録 附 館蔵 和漢古典籍目録』刊行 |
| 1984年度 | 特別展「間中善雄による医の先人展」 | 2002年度 | 薬草園フェスタ 初開催
企画展「鍼のひびき 灸のぬくもり-癒しの歴史-」 |
| 1985年度 | 特別展「植物にみる先人の知恵」 | 2003年度 | 企画展「薬の広告文化-看板・錦絵広告・ポスターの世界-」
常設展展示替え |
| 1986年度 | 展示館の新設 | | |
| 1988年度 | 特別展「錦絵にみる医療と健康-江戸・明治を中心に-」
特別展「ポスターにみる大衆薬'88」 | | |

2004年度	ミニ企画展「やさしいゲノムの世界」	2015年度	企画展「認知症 -ともに生きる-」 展示「おくすり歴史ものがたり」
2005年度	企画展「趣味多彩 ある漢方医のコレクション」 図書館の新設	2016年度	企画展「感染症の世界 -顧みられない熱帯病を中心として-」 『薬用植物園パンフレット』刊行
2006年度	ミニ企画展「認知症を知る」 博物館HPに図書検索機能・デジタルアーカイブ資料を公開	2017年度	企画展「進化するくすり」
2007年度	企画展「薬と秤 -重さをはかる-」	2018年度	企画展「くすり創りの歴史」 常設展の部分的リニューアル
2008年度	企画展「くすりの夜明け -近代の薬遺品と看護-」 特別展「-内藤祐次- ひと筋に歩んできた道」 マンゴスチンの花が開花	2019年度	企画展「薬局方のあゆみ -確かな品質のくすりを求めて-」
2009年度	特別展「江戸に学ぶ からだと養生」 常設展リニューアル 経済産業省 近代化産業遺産の認定	2020年度	企画展「麻酔薬のあゆみと華岡青洲」 若年性認知症就労支援の開始 新型コロナウイルスCOVID-19の流行により臨時休館
2010年度	企画展「綺麗の妙薬 -健やかな美とくすりを求めて-」	2021年度	企画展「日本人を苦しめた感染症と新型コロナウイルス感染症」
2011年度	企画展「病まざるものなし -日本人を苦しめた感染症・病気 そして医家-」	2022年度	企画展「ウイルスの世界～発見から2021年新型コロナウイルス～」
2012年度	企画展「江戸のくすりハンター小野蘭山-採薬を重視した本草学者がめざしたものの-」	2023年度	日本植物園協会大会 総会が当館で開催 企画展「ここまで来た がんとの向き合い方」
2013年度	企画展「くすりと医療の照古鑒今-漢方の源流と医療の近代化産業遺産-」	2024年度	企画展「認知症のいま」
2014年度	企画展「がん -古から未来へ-」 『博物館パンフレット』を刷新	2025年度	登録博物館として認定。 企画展「本草学から植物学・創薬への広がり」

II 2025年度組織体制予定

i 職員(体制と名簿)



職員名簿(非公開)

ii 展示内容

展示館常設展 -日本の医薬の歴史-

常設展は、展示館1階および2階にて公開している。博物館設立趣意に沿い、現在は順路に沿って日本の医薬の歴史を太古の昔から近代まで通して学べる仕組みとなっている。特に日本においては江戸時代から明治時代に中国医学から取り入れた漢方が発展した。展示館では多くの生薬や明治時代の薬屋の店先のジオラマ模型など、まるで来館者がその時代に生きているかのような体験をしていただけるように情報を発信している。

薬用植物園

主に薬草園・薬木園・温室から構成されており、約7000m²の敷地内に700種類の植物が植栽されている。

薬用植物園では、展示館で見ることのできる生薬を、生きた姿で観察することで薬草に対するより深い知識を得ることが出来る。例えば、生薬であるニンジンやポタノピの基原植物であるオタネニンジンやポタンが植栽されている。また、ニューコウジュなど他の園で見られる機会の少ない植物も展示している。

紹介動画
QRコード



ii 展示内容

企画展・特別展

「本草学から植物学・創薬への広がり」

古くから人間が食料や薬として利活用してきた植物のうち、特に薬になる植物は薬草・薬木と呼ばれ、本草学にまとめられてきた。江戸時代以前は、日本の医師たちは中国の書物から薬を学び医学に携わっていたが、江戸時代に入ると中国の書物には書かれていない動植物が日本にあることが明らかにされ始めた。その後、採薬という形で日本各地の有用な動植物が調べられ、日本独自の知識が集積していった。1877年(明治10)には現在の東京大学が設立されて、日本で初めての植物学教室が誕生した。この頃から西洋から入ってきた植物学が発展し、薬学においても植物から有効成分を取り出す研究や取り出した成分の薬理作用を調べる研究が行われた。つまり、この頃を起点に裾野の広い学問であった本草学は植物学や薬学にとって代わられていったといえる。本企画展では、日本における本草学及び植物学の発展に関する歴史を取り上げつつ、日本人本草学者や植物学者の業績、現代の私たちが植物を学べる場所についても紹介する。



↑ 牧野富太郎が記載した植物ヤマトグサ



← 東京大学で平瀬作五郎が精子を発見し世界的な業績となったイチョウの雄花(左)と雌花の授粉滴(右)



← 葛根湯などは人類が昔から利用してきた処方である(左)。貝原益軒が著した『大和本草』に記載される日本固有植物ヤブデマリ(右)。

「内藤祐次 ひと筋に歩んできた道」

博物館設置運営を行っている株式会社エーザイの二代目社長内藤祐次が歩んできた歴史を、本人の直筆資料等やエーザイの歴史と共に紹介している。

III 2024年度の歩み

i 職員(体制と名簿)

館長

統轄長

学芸3名

薬草園3名

庶務2名

職員名簿(非公開)

ii 実施事業の概要

□ 展示活動

常設展-日本の医薬の歴史-

博物館設立趣意に沿い、現在は順路に沿って日本の医薬の歴史を太古の昔から近代まで通して学べる形となっている。

常設展-薬用植物園-

主に薬草園・薬木園・温室から構成されており、約7000m²の敷地内に700種類の植物が植栽されている。

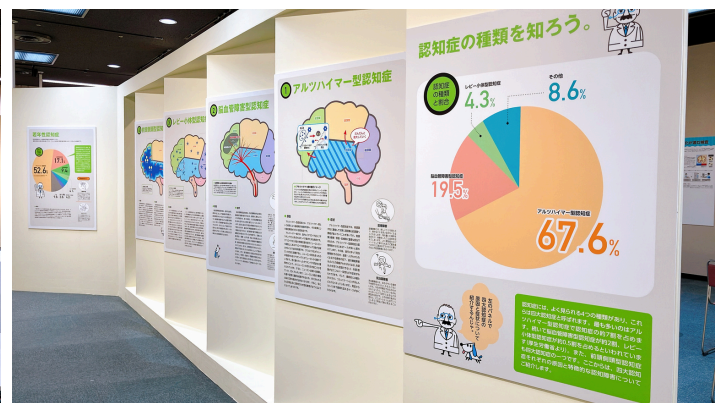
企画展・特別展

「認知症のいま」

本企画展は歴史よりも「認知症のいま」に重点をおき、認知症に関する問題と希望について紹介している。特に現在全国で取り組まれている認知症への取り組みや認知症の原因・症状を取り上げたほか、その実態が次第に明らかになりつつある若年性認知症について取り上げた。例えば、若年性認知症の人は高齢者の認知症の人と比較して体力がある傾向にあり、行動範囲も広いため高齢者向けのプログラムが多いサービスの中から、自身の生活スタイルに合った居場所を探すことが難しい等の課題がある。このような若年性認知症特有の課題に関して、ご本人やご家族の想いをインタビューを通して紹介した。また2023年に施行された認知症基本法やアルツハイマー型認知症の新薬に関する情報も紹介した。



← 企画展の様子
図録表紙 →



「内藤祐次 ひと筋に歩んできた道」

博物館設置運営を行っている株式会社エーザイの二代目社長内藤祐次が歩んできた歴史を、本人の直筆資料等やエーザイの歴史と共に紹介している。

ミニ企画展

「光る! 医心方」、「医薬品のルールブック『日本薬局方』」

□ 調査研究活動

論文・新産地報告

立松和晃, 2024, 各務原市にてシタバニハゴロモの侵入を確認 / First record of the alien species "Lycorma delicatula (White,1845)" in Kakamigahara - City, JAPAN., 啓蟄

立松和晃, 2024, 新たに確認された外来植物 ギンモウガシワ *Mallotus apelta*(Lour.)Mull. Arg. (Euphorbiaceae) in Japan/ New record of an alien species *Mallotus apelta*(Lour.)Mull. Arg.(Euphorbiaceae) in Japan., 岐阜県植物研究会誌 No.39

学会学会講演及び学術雑誌寄稿

稲垣裕美, 江戸時代の病気と薬, 2024年度日本薬史学会公開講演会, 口頭発表

稲垣裕美, 江戸時代の病気とくすり-内藤記念くすり博物館の資料をもとに-/Diseases and Medicines in the Edo Period Based on Historical Materials from the Naito Museum of Pharmaceutical Science and Industry, 薬史学雑誌 No.59(2)

学会発表・学会講演

須山知香、堀文美、立松和晃、亀谷芳明、山岡千容、千葉友斗、今林潔, 激減してしまったスズカケソウを救うには, 2024年度日本植物分類学会, ポスター発表

立松和晃、土田浩治、岡本朋子, ツルニンジン *Codonopsis lanceolata* における花形態の変異, 2024年度日本植物園協会大会, 口頭発表

外部団体企画講演・企画展示・寄稿

立松和晃, 絶滅危惧植物の基礎的生態研究, 2024年度岐阜大学シンポジウム・岐阜県生物多様性シンポジウム”いまをいきづらい植物たち”

立松和晃, 登録博物館を目指すに至った理由と今後の展望について, 2024年登録博物館説明会

立松和晃、亀谷芳明、山岡千容、千葉友斗、森田宏, 東海圏における絶滅危惧植物保全への試み, 2024年度岐阜大学図書館企画展

山岡千容, 植物園に行こう 3.薬用植物園を楽しむ, 日本花の会「花の友」2024年夏号

亀谷芳明, 内藤記念くすりの博物館 薬草ハーブガーデンフェスタ, 日本メディカルハーブ協会会誌“JAMHA”

亀谷芳明, 国民の健康を支える製薬会社の薬用植物園 内藤記念くすり博物館, 日本植物園協会60周年記念プレシンポジウム“日本の植物園遺産”

ii 実施事業の概要

□ 資料収集活動

2024年度 購入資料・図書

- ① De Smet氏 日本の催事・絵馬コレクション
- ② 江戸時代の医薬に関わる広告
 - ・硝子ギヤマン問屋加賀屋久兵衛 錦絵広告 1点
 - ・薬品ホルトス ちらし1点
- ③ 牧野富太郎全集 1セット6冊
- ④ 船山氏 毒と薬関係図書コレクション 29冊

2024年度 交換受入れ資料・図書

- ① 大日本植物志
- ② 植物種苗交換 7施設 83種

2024年度 交換提供資料・図書

- ① 植物種苗交換 13施設 35種

2024年度 新規登録資料・図書

- ① 牧野富太郎全集 1セット6冊
- ② 船山氏 毒と薬関係図書コレクション 29冊

□ 利用状況

2024年度の来館者数は計27276人であった。会館日数は計251日であり、1日あたり約109人の来館者が見られる。

来館者 2024年度			
月	来館者数(人)	開館日数	平均来館者数/日
4月	2,140	25	86
5月	3,204	27	119
6月	2,350	26	90
7月	1,717	26	66
8月	1,897	27	70
9月	2,349	25	94
10月	3,016	27	112
11月	2,410	26	93
12月	2,192	20	110
1月	1,070	22	49
2月	2,398	24	100
3月	2,533	26	97
計	27,276	251	109

※9/18~20は燻蒸閉館、12/25~1/8は年末年始休館。

□ 博物館関係団体

友の会(博物館関連団体)

「薬草友の会」は薬用植物の栽培を通じた会員相互の親睦、ならびに薬用植物および薬に関する正しい知識の向上とエーザイ株式会社内藤記念くすり博物館附属薬用植物園の充実と発展に寄与することを目的として設立された。内藤記念くすり博物館に附属する内藤記念くすり博物館附属薬用植物園にて、イベント開催や植物栽培のサポートを行っている。

令和6年度の総会員数は127人であった。活動日ごとに5つのグループに分かれており、グループごとに特色がある。

また、当園で毎年開催されているイベント「栽培教室」に一年間(4~12月)通して参加した者のみ「薬草友の会」への入会資格がある。



活動風景

□教育普及活動

(1)2024年度イベント開催状況一覧

月	日	曜日	定員	参加	事業名	会場（館外の場合）
4	20	土	20	3	薬草園ガイドツアー	
4	20	土	300	3	認知症サポーター養成講座	
4	27	土	20	5	カモミール収穫体験	
5	4	土	20	21	カモミール収穫体験	
5	5	日	50	50	こどもの日イベント ショウブ配布	
5	18	土	-	1382	薬草・ハーブガーデンフェスタ	
5	25	土	40	5	企画展講演会・ガイドツアー	
6	1	土	10	3	押し花体験	
6	9	日	10	7	標本作り（全2回のうち一回目）	
6	15	土	10	11	ラベンダー収穫体験	
6	23	日	10	7	標本作り（全2回のうち二回目）	
6	22	土	20	30	薬草園ガイドツアー	
6	22	土	300	11	認知症サポーター養成講座	
7	6	土	20	7	学芸一品ガイド	
7	20	土	20	22	藍染教室	
7	21	日	36	36	くすりの歴史と製薬道具体験	しだみ古墳ミュージアム
7	23	火	-	-	博物館紹介とワークショップ	
7	27	土	40	20	夏休み親子講座 薬草について学ぼう	
8	3	土	10	3	押し花体験	
8	17	土	20	3	企画展ガイドツアー	
8	24	土	20	8	薬草園ガイドツアー	
8	31	土	300	-	認知症サポーター養成講座	台風のため中止
9	7	土	15	18	レモンガラス収穫体験	
9	15	日	20	15	学芸一品ガイド	
9	21	土	20	32	薬草園ガイドツアー	
9	22	日	20	19	ローゼル収穫体験	
9	28	土	20	10	ステビア収穫体験	
10	5	土	20	4	企画展ガイドツアー	
10	19	土	-	800	薬草・ハーブガーデンフェスタ	
10	26	土	100	16	認知症サポーター養成講座	
10	27	日	-	46	「アマゾンの木の実カカオにせまる」	アクアトトぎふ
11	16	土	100	28	講演会『江戸の病とくすり』	
11	26	火	20	20	エーザイ川島工園見学会	
12	7	土	10	2	押し花体験	
12	15	日	20	7	ポマンダーづくり	
12	21	土	100	10	認知症サポーター養成講座	
12	22	日	200	237	クリスマスコンサート	
1	25	土	10	11	薬草で作る押し花体験	
1	25	土	300	27	認知症サポーター養成講座	
2	1	土	20	11	温室ガイドツアー	
2	8	土	300	39	これなら分かる、薬草と漢方の話	
2	22	土	300	15	認知症サポーター養成講座	
3	1	土	30	6	企画展講演会・ガイドツアー	
3	15	土	30	29	春の薬草園ガイドツアー	
3	15	土	300	24	認知症サポーター養成講座	
3	26	水	20	10	エーザイ川島工園見学会	
3	27	木	20	18	エーザイ川島工園見学会	

団体名と人数表

156団体 3922名

(非公開)

ii 実施事業の概要

□ 博物館間・外部連携

加入団体

日本博物館協会 岐阜県博物館協会 岐阜県植物研究会
日本薬史学会 日本博物館学会 全国科学博物館協議会
認知症家族の会 各務原市観光協会 岐阜県昆虫分布研究会
日本植物園協会 COMIC(産業文化博物館コンソーシアム)
AMIC(産業観光推進懇談会)

団体協力

岐阜県博物館協会 岐阜ブロック部会員 ひと部会員
岐阜県植物研究会 事務局
各務原市観光協会 会長
日本植物園協会シンポジウム委員 委員長

□ 博物館職員研修

2024年は、合計 博物館外研修 18回、博物館内研修 26回 を実施。

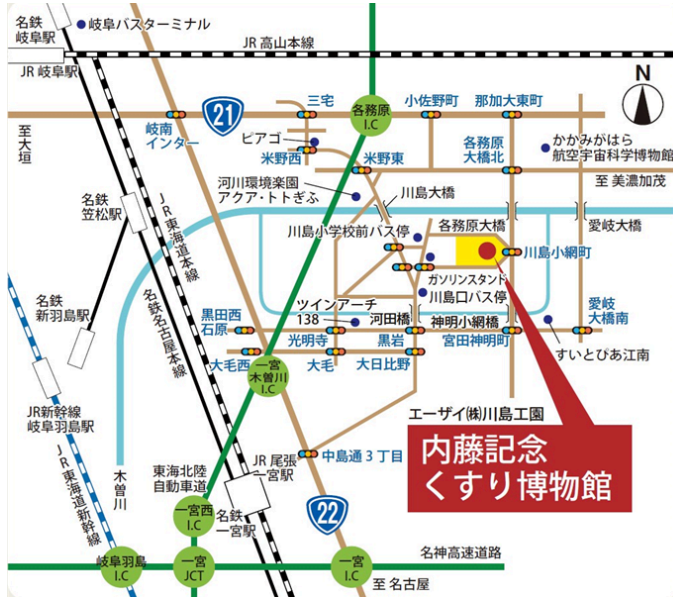
日付(初日)	研修名
4月18日	花鎮祭
4月19日	アクアト新展示施設紹介
4月20日	岐阜県植物研究会調査会総会
4月27日	日本薬史学会総会・講演会
5月21日	日本植物園協会大会
5月30日	岐阜県博物館協会総会研修
6月19日	ひと部会参加
6月22日	企画展監修者との打ち合わせ+他館視察
10月27日	データベース研修会
11月2日	日本薬史学会
11月26日	岐阜県博物館協会研修 ひと部会、岡山交流会
12月15日	伊藤圭介日記第30巻記念講演
2月1日	バラの剪定講習会
1月30日	寄託者への資料管理報告と意見交換
2月15日	日本薬史学会中部支部例会
3月7日	日本植物分類学会
3月11日	第94回COMIC

日付(初日)	研修名
4月1日	新人研修
4月10日	SHE研修
5月15日	SHE研修
6月12日	SHE研修
6月21日	安全大会
6月25日	個人情報保護研修
7月3日	SHE研修
8月9日	個人情報保護研修
8月7日	SHE研修
9月6日	カメラ撮影技術研修
9月11日	SHE研修
10月8日	SHE研修
10月9日	岐阜県農業管理指導士養成研修
10月25日	交通安全運転研修
11月1日	個人情報保護研修
11月7日	SHE研修
12月5日	カメラ撮影技術研修
12月7日	SHE研修
12月18日	火器取り扱い安全研修
12月19日	AED使い方研修
1月9日	SHE研修
2月5日	SHE研修
2月21日	安全大会
2月21日	個人情報保護研修
2月22日	園内石積みメンテナンス講習
3月13日	SHE研修
3月13日	AED使い方研修

IV 利用案内

i 基本情報

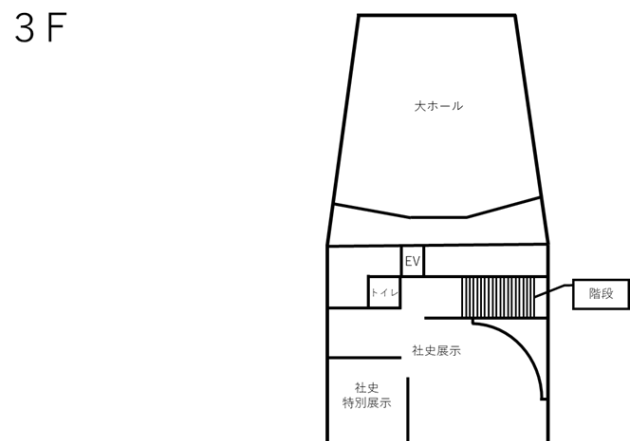
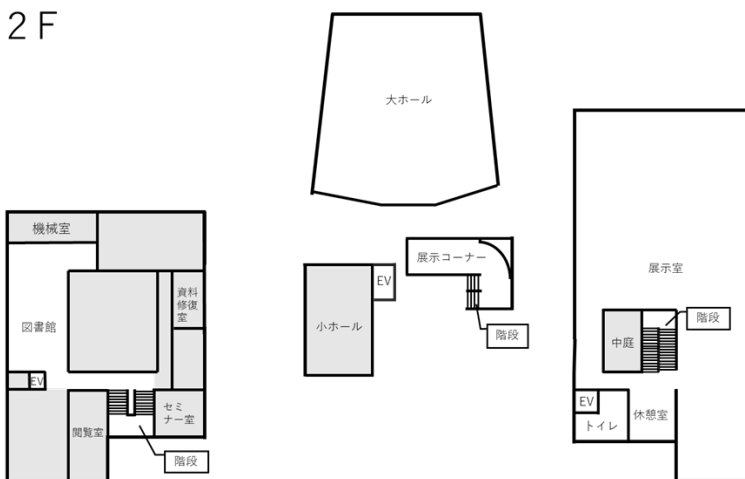
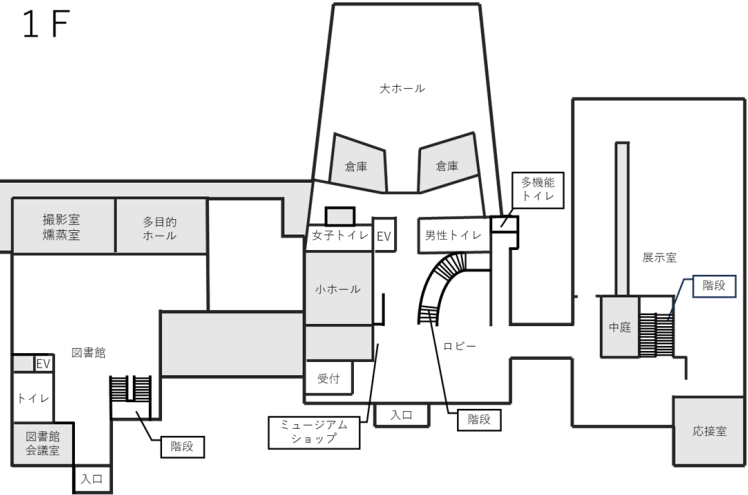
- (1) 開館時間 9:00 ~ 16:30 (最終入場16:00)
- (2) 休館日 月曜・年末年始
- (3) 入館料 無料
- (4) 駐車場 無料駐車場 60台有
(【北側】乗用車30台【南側】乗用車30台 / バス5台)
- (5) 交通案内



【公共交通機関をご利用の場合】

〈名古屋方面〉 JR東海道本線	川島行き	内藤記念くすり博物館	
JR名古屋駅	尾張一宮駅		名鉄バス 川島口
名鉄名古屋駅	名鉄一宮駅		徒歩で1.5km/20分
名鉄名古屋駅	江南駅		タクシーで10km/20分
〈岐阜方面〉	川島・松倉行き	タクシーで5km/12分	
名鉄笠松駅	川島小学校前	徒歩で1.5km/20分	
〈各務原方面〉 川島線	各務原市役所駅前		
ふれあいバス			

ii 施設設備・館内マップ



※灰色は通常、博物館関係者以外立ち入り禁止

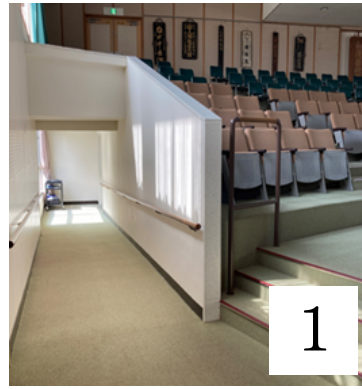
iii バリアフリー設備

内藤記念くすり博物館では、障がいのある方や高齢者を含め、全ての利用者が安全に安心してご利用いただけるよう以下に挙げる設備を備えております。

- ① スロープ(玄関、大ホール、展示館入口の3ヶ所)
- ② 身障者用トイレ(博物館本館と図書館の2ヶ所)
- ③ 貸出用車椅子(2台)
- ④ 貸出用ベビーカー(2台)
- ⑤ ベビーベッド&こども用シート付トイレ(本館1階男女のトイレ内、各1ヶ所)
- ⑥ エレベーター(各館3基)



1



1



2



3,4



5



5

V 博物館法上の変更事項の有無

	変更の有無	変更内容
設置者	変更なし	
設置者住所	変更なし	
設置法人定款	変更なし	
博物館名称	変更なし	
博物館住所	変更なし	
施設の増改築	変更なし	
学芸員	変更なし	
博物館則	変更なし	
職員数	変更なし	
学芸員	変更なし	
博物館資料目録	変更なし	

今年の変更はありません。

内藤記念くすり博物館 博物館報告書 2024年度

The Naito Museum of Pharmaceutical Science and Industry Museum Report in 2024

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1

Tel.0586-89-2101/Fax.0586-89-2197 HomePage: <https://www.eisai.co.jp/museum>

2025年6月12日発行